

その模型は正確で、しかも安全？

～感染対策における歯科チームの連携～

私達、歯科技工士が日々製作する“歯科補綴物”の原点となる模型は、口腔内の状況を正確に転写されていなければなりません、病原微生物も転写されていますと大きな問題です。

アルギン酸印象材の正確性と安全性については、技工室における実証実験値をすでに報告《平成21年3月「日本歯技」第477号》していますが、臨床の現場では歯科医師の指導の下、歯科衛生士をはじめとするスタッフの皆様と Standard Precaution[標準感染予防策]に関し、共通認識を持たなければなりません。

しかし、歯科技工士への感染予防に関する教育はきわめて少なく、その理論と実践の詳細は“厚生労働省委託感染予防歯科技工士講習会”に委ねるとして、今回は、平成25年に医歯薬出版社から出版された歯科技工[別冊]“誤差を埋めるクラウンブリッジの臨床・技工”に投稿した【感染対策における歯科医療チーム連携の要点】を中心にお話しさせて頂き、皆様方の臨床の参考にして頂ければと思います。